

両親と子供のない夫婦よりなる世帯(6,100世帯)、片親と子供のない夫婦の世帯(3,400世帯)その他の2世代世帯(4,900世帯)がみられる。

三世帯世帯は、二世帯世帯について多く、33.3%(127,900世帯)をしめている。三世帯世帯のうち、両親と子供のある夫婦よりなる世帯は53,600世帯、片親と子供のある夫婦よりなる世帯が、50,200世帯、その他の3世代世帯が24,100世帯となっている。

世帯の収入、世帯員の職業、世代の異なる構成員をもつ世帯、欠損世帯、これを取りまく社会環境の変化などの要因が錯そうし、家族生活の近代化には、多くの混乱が予想される。

また、14才以下の幼児のいる世帯は、親族世帯の80.5%をしめ、60才以上の高齢者のいる世帯が、親族世帯のうち25.4%に及び、家族生活の安定と近代化にそれぞれ問題があると考えられる。とくに、非親族世帯、単独13,500世帯のうち2,900世帯が60才以上の高齢者を含んでいることは、親の扶養問題との関係、社会福祉の上からみて問題であろう。

3 都市、都市近郊、農村地域の家族

都市部には、非農林漁業就業者世帯が多く、農林漁業就業者世帯は農村部に多く、また農林、非農林混合世帯は都市周辺部に多いとの推定にたつて、第30表から地域別の家族構成の特色を考えてみる。

第30表 就業別世帯構成の実態

(35.10.1)

		農林漁業就業者世帯	農林非農林混合世帯	非農林漁業就業者世帯
世帯数(構成比)		116,400 30.3%	58,100 15.1%	197,700 51.5%
人		%		
構成人員比率	1	1.3	-	4.5
	2	4.1	1.7	12.9
	3	7.7	6.9	18.4
	4	11.3	9.1	21.8
	5	14.2	12.4	18.9
	6	18.1	18.2	12.6
	7	16.8	19.1	6.7
	8	12.6	13.3	2.8
	9	7.8	9.5	1.0
	10	9.2	5.0	0.3
	11以上	2.1	4.8	0.2
平均世帯構成人員		人 6.08	人 6.24	人 4.26
65才以上の者のいる世帯		44,000 (38.3%)	20,500 (35.3%)	27,600 (14.0%)

都市部の世帯数がもっとも多い。その平均世帯構成人員も4.26人でもっとも少ない。構成人員比率をみると4人世帯が21.8%、その上下の5人世帯が18.9%、3人世帯が18.4%とつづき、2人世帯が12.9%、6人世帯が12.6%となっている。65才以上の高齢者のいる世帯は、もっとも少ない。